



山崎 年一

- 教育委員会制度改革について市長・教育長の所見を問う
- 大願寺地区福祉施設用地が住宅に変更されることについて市長のご所見を問います

網谷 芳孝

- 晴海臨海公園の将来の計画について

乃美 晴一

- 第五次総合計画の後に待つ、人口減少社会への対応
- 行財政システム改善推進本部会議の検討状況について
- 大竹市消防団の活性化について

山本 孝三

- 介護保険制度について
- 国保事業について
- 自然エネルギーの活用について

日域 究

- 大願寺の借金はなぜ減らないか
- 正しいと思うなら、堂々と説明を

田中 実穂

- 新年度予算から健康増進事業について
- 地域包括ケアシステムへの取り組みについて

原田 博

- 平成 26 年度予算案の位置づけ、これからのまちづくり、財政運営への展望を問う

質問者 山崎 年一

教育委員会改革を問う

法の趣旨に沿った教育行政が行われるべきと考えます

問 現在の教育委員会制度改革案は、首長が教育長を任命・罷免する制度で、選挙で選ばれる首長の意思で教育が変わる危険があります。教育の公平性・中立性・継続性を守るために市長・教育長の所見を問う。

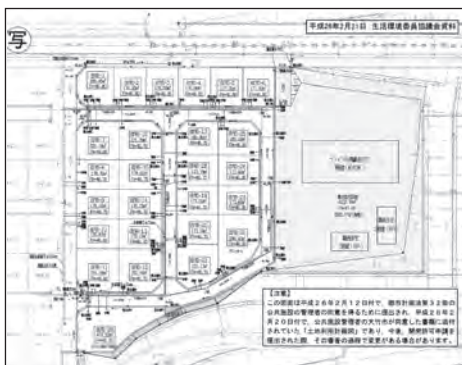
答 教育委員会と相互に連携、協力し、それぞれの権限の中で施策を展開していきたいと考えます。

(市長)
法に基づいて、子ども一人ひとりが主役となる教育を市長と連携して行います。
(教育長)

「大願寺地区福祉施設用地が住宅地に変更」を問う

良好な住宅団地整備により市街活性化と定住促進を図りたい

問 大願寺地区福祉施設用地の3分の2を住宅地に変更することとは、高齢社会を迎え福祉施策に期待する市民への裏切り行為と考える。市長は大願寺地区福祉施設用地に関する24年3月議会の答弁で「開発の目的は分譲住宅及び福祉施設で、ポロポーサル時点における計画と変更はない。」と答弁されています。整合性がないと考えるが市長の見解を問う。



業者が提出した
大願寺地区福祉施設用地 住宅地変更図

答 小方小・中学校と一体となった良好な住宅団地の整備により人口増につなげることが当初からの市の最大の目的です。土地の所有者であるエポックワン有価会社としても、当初からの開発の基本理念である「生涯安心できる居住空間」をなんとか実現しようとするこのたびの開発計画だと伺っています。計画される施設の内容やサービスはまだ不明ですが、開発計画内容は、基本理念を逸脱するものではないと考えます。

福祉施設用地に関する24年3月議会の答弁で「開発の目的は分譲住宅及び福祉施設で、ポロポーサル時点における計画と変更はない。」と答弁されています。整合性がないと考えるが市長の見解を問う。

質問者 網谷 芳孝

晴海臨海公園の

将来の計画について問う

笑顔や元気が輝く場所と
なるよう努めます

問 昨年より、晴海臨海公園では野球場などの建設工事が進んでおり、野球関係者にとりましては、待ち遠しい限りだと思われ
ます。

ただ、最近では、サッカー人口・サッカーファンも野球人口に匹敵するくらいに人口数と思われ
ます。将来サッカー専用球場が完成すれば、素晴らしいスポーツ施設の整った、賑わい溢れる晴海臨海公園になるのではないで
しょうか。サッカー少年たちの笑顔も目に浮かんで
きます。

以上のことから、サッカー専用球場建設の考えはあり
ませんか。

答 現在、第1期工事として、平成25年度と平成26年度の2ケ年で、公園の南側約4ヘクタールの整備を行って
います。

残りの区域については、各種スポーツ団体からお聴きしたご意見、ご要望や現在の利用状況を踏まえ



て、中心部に、南北240m、東西180mの多目的広場を整備する計画です。この広場は、西側を芝生のグラウンド、東側を土のグラウンドとし、4つに区分した上で、サッカーや少年野球、グラウンドゴルフなどの多種多様なスポーツが相互利用でき、さらには、イベントなどにも利用できるようになります。

また、公園北側には、家族連れでも利用しやすい芝生広場や子ども広場を整備する計画です。このため、現時点でサッカー専用エリアを確保することは難しいと考えています。

現在、整備工事を行っている球技場の芝生部分は、一般の方や少年サッカーで利用できる広さを備えています。完成後は、野球の他にサッカーなどにも利用していただけだと思います。

質問者 乃美 晴一

消防団の新たな役割とは

住民の生命や財産を守る
重要な地域防災力です

問 「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され消防団に新たな役割が期待されています。今後の消防団に関する考えを伺います。



大竹まもるくん

大竹ひまわりちゃん

答 消防本部・署と消防団は、消防防災体制の両輪ですので、消防団の充実・強化は市民の安心のための重要事項です。これまでの取組をさらに進め、住民、自主防災組織とも連携をとりながら地域防災力の充実・強化に務めたいと考えて
ます。

人口減少社会に

どう対応しますか？

わがまちプランを
確実に実施していきます

問 高齢化社会の後に、大きな人口減少社会が訪れることが予測されている状況で本市も同様に急激に人口が減っていくことが予測されます。30年後まで持続可能なまちづくりの姿勢を伺
います。

答 「住みたい・住んでよかったと感じるまち」をめざし、安心して子育てのできるまちにしたい。また、支える者と支えられる者の不均衡については、高齢者の皆様が生きがいや健康保持のために働いたり、体を動かすことで、支えられる側に回らない気概を持っていた
ただくことも大切です。

「よいまち」という夢を描きながら、人口減少に応じた持続可能な行政運営を根底に持った計画「わがまちプラン」を、確実に実施することが、今すべきことと考えて
います。

その他の質問

● 行財政システム改善推進本部会議の検討状況について

質問者 山本 孝三

介護保険制度について

地域包括ケアシステムの
実現に向け取り組みます

問 介護保険制度の「改正」が
予定されています。その内容に
ついて示し、平成27年度以降3
年間の事業計画策定にあたり、
施設不足・利用負担増・軽度者
の締め出しなど心配です。市の
対応を示して下さい。

答 要支援1及び2の方の一部の
サービスは、市が事業を実施しま
すので、移行が完了する平成28
年度末までに、できる限りの努力を
していきます。また平成27年度か
らの計画では、適切に介護保険料
を算定し、地域包括ケアシステム
の実現に向けた実効性のある計画
となるよう取り組みます。

国保事業について

よりよい運営形態に向け
意見を述べていきます

問 国保事業が県単位に「広域
化」する準備がされていますが、
県内各市町の保険料などは大き

な差がありますが、どう調整し
ますか。また、「広域化」により、
国保加入市民の意見も要望も反
映できず、上位下達の運営にな
り、保険料負担だけ重くなるの
ではありませんか。

答 国は、平成27年通常国会への
関連法案提出を目指しており、地
方の考えを反映するには、本年秋
までに県の方針を取りまとめる必
要があります。個別の検討におい
ては、本市の被保険者にとってよ
りよい運営形態となるよう、しつ
かりと意見を述べていきます。



ゆうあいホーム

その他の質問

●自然エネルギーの活用について

質問者 日域 究

大願寺事業者選定
委員会の不思議

事業者の選定は、
適正に行われています

問 プロポーザル方式で行われ
た大願寺宅地売却では、選定委
員会で個々の委員による採点が
集計されて事業者が決まったと
され、集計結果一覧は公表され
ています。

ところが委員11名中4名に尋
ねたところ、採点したと答えた
方は誰もいません。他のプロポ
ーザル方式の事例では会議の記
録として全委員の印鑑を押した
記録票が作られています。大
願寺売却の記録票は、会議では
なく報告とされ、関係課の職員
しか印鑑がありません。

それどころか、公募を実施し
た2ヶ月前にすでに選定された
業者に情報が流れているかの様
な文書まで存在します。選定が
正しく行われたのか、大きな疑
惑を感じます。委員であった総
務部長は採点をしましたか。

事務局に提出、各委員の評価を事
務局が取りまとめ、評価シート集
計結果を資料として委員会に提出
し、委員により審査が行われまし
た。

あたかも不正なことが起こった
というような憶測での質問ですが、
やましい思いは一切ありませんし、
またそういう不正をしたこともあ
りません。

(総務部長) 4階の第2会議室で、
プレゼンテーションが午前中にあ
り、その後採点して、それを事務
局に提出しました。



小方ヶ丘

質問者 田中 実穂

特定健診と大腸がん検査の
健診勧奨の取り組みについて

自己負担額の無料化と併せて
積極的な勧奨に組みます

問 平成26年度から特定健診と大腸がん検査の本人負担が無料となります。死因の3割を占める心疾患と脳血管障害。内臓脂肪を減らすことで、発症を抑える事ができるといいますが、本市においては、国、県の受診率を大きく下回っています。健診勧奨の取り組みについて伺います。

答 先進地事例を参考に、受診費用の自己負担額の無料化と併せて、広報紙などでの案内、受診券送付時に「健診・がん検診のしおり」や糖尿病用尿検査紙の同封、個別の電話勧奨、地域での出前講座の実施など、積極的な受診勧奨・保健指導に取り組めます。

地域包括ケアシステムへの
取り組みについて

各分野の専門職や関係団体と
連携しながら進めています

問 高齢者が住み慣れた地域で、医療介護などのサービスを一体で受けられる社会保障の取り組み。国は重点化、効率化から方向性は示しましたが一律とはいきません。市町村の取り組みにより大きな差が生じませんか？取り組みについて伺います。

答 医療と介護の密接な連携のため、関係分野の専門職による協議会を設立したほか、「在宅医療推進拠点整備事業」として、大竹市医師会をはじめ関係団体による様々な取組が行われています。今後は市民の皆さんの意見も参考に市独自の取組を進めていきたいと思います。

その他の質問

●がん検診の推進、西医療センターに設置したPET-CTの検診状況について等



大竹市健康増進キャラクター
「ゾウのしんちゃん」

質問者 原田 博

これからのまちづくりを
考えてみましょう

「よいまち」に向けて
歩み続けます

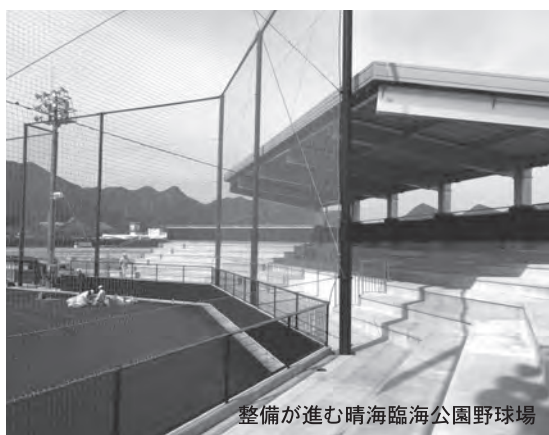
問 本市が抱えています課題について、どう取り組んでいくのか、それらの解決に向け、どう向き合っていけばいいのかが、問われます。そのためには、人目を引くような目玉施策を華々しく打ち上げるばかりでは、いきません。ひと時の流れだけに酔うものであってもいけません。財政規律を重視した施策の実現であるべきと考えます。併せて、明確なビジョンを基に、限られた財源での優先順位、必要性を示す、市民から理解が得られるプロセスが求められます。しかも未来に向けてのまちづくりは、止めることはできません、止めてはいけません。

ついては、平成26年度予算案の位置づけ、これからのまちづくり、財政運営への展望を問います。

答 施設の老朽化対策、少子化・高齢化社会への対応、加えて国の財政状況の悪化による地方財政への

の影響など、私たちを取り巻く環境への不安や不満は皆様の中にもあるのではないかと思います。しかし、よいまちを作っていくためには、現実をしっかりと見据えたいうえで、目先のことにみにつまづくことなく、着々と歩み続けることが重要です。

「20年、30年先の未来の大竹市がこのようになっていたら嬉しい」という多くの市民の皆様の思いをベースに、市民の皆様と一緒に作り上げた「わがまちプラン」。これを実現していくことが、これまで、そしてこれからのまちづくりと考えています。今年度予算は、平成24年度から進めている「わがまちプラン」の方向性を踏襲する予算です。



整備が進む晴海臨海公園野球場